

令和元年 10 月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和元年 10 月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

日本各地の鯖の魅力を発信する大規模イベントで、東北では初開催となる「鯖サミット 2019in 八戸」が、11 月 2 日（土）・3 日（日）に八食センターで開催されます。

全国から鯖自慢の産地が集合し、鯖料理を振る舞うほか、八戸せんべい汁や八戸ブイヤベースなどの提供もあります。

また、八戸水産高校「八水大漁太鼓」や西園小学校ジャズバンド部の演奏、全国鯖トークセッションなど、鯖サミットを盛り上げるステージイベントも行われます。

みなさま、全国の美味しい鯖料理と出会うことができる「鯖サミット 2019in 八戸」にぜひお越しください。

◆詳細はこちらをご覧ください（「鯖サミット 2019in 八戸」ホームページ）

<http://38summit.jp/>

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

### 八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館 5 階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸10月号 レポート

令和元年9月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	中心街で「本のまち八戸ブックフェス」開催 ～“本尽くし”の一日に～
(2)	「しんかい6500」「よこすか」一般公開 ～世界に誇る船体 間近に～
(3)	「YSアリーナ八戸」オープン ～鏡面のように輝く銀盤で初滑り～

## 【産業】

記事	概要
(4)	中心街の大型小売店「三春屋」売却へ
(5)	VISITはちのへ×味の海翁堂 紅白の南部せんべい開発
(6)	～都こんぶに合う日本酒～ 八戸酒類で新商品発売
(7)	夕ピオカ専門店「琥珀」 県内1号店八戸にオープン
(8)	「八戸横丁月間酔っ払いに愛を2019」 多彩なイベントで「横丁」の魅力を発信
(9)	高級「ケンサキイカ」？ 異例、八戸近海で漁獲
(10)	漁師しか知らぬ味 イカの“腕” 商品化目指す

## 【地域】

記事	概要
(11)	新井田川と小舟渡漁港内に“マグロ”！？
(12)	八商高生が南部せんべいの開発に挑戦 ～イチゴ、ブルーベリー、菊でアレンジ～
(13)	全国学生書道展 学校の部 小中野小が32年連続優勝
(14)	～街の魅力をカメラでパシャ～ 「ラブはちフォトリンピック」開催
(15)	「HAPPY WOMAN 奥入瀬サミット2019」開催

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	60歳以上のサッカーチーム「八戸ゼブラ60FC」 東北大会で初優勝
(17)	全日本アマチュア将棋名人戦 八戸出身の中川六段が初優勝
(18)	更上閣で「下北の能舞」公演 ～伝統の舞 風情たっぷり～
(19)	八戸藩伝統の「加賀美流流鏝馬」 152年ぶりに復活
(20)	八戸駅西地区の「フラットアリーナ」 工事進捗率76.2%

【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>中心街で「本のまち八戸ブックフェス」開催 ～“本尽くし”の一日に～</b></p> <p>地域を「本のまち」として活性化させようと、八戸ブックセンターの主催で、「本のまち八戸ブックフェス」が9月21日、中心街の八戸ブックセンター、はっち、マチニワの3カ所で開かれた。古本の販売や書店員によるトークイベント、親子連れで楽しめる読み聞かせ、絵本の紹介などの企画を展開。八戸市では、まちづくり戦略の中で「本のまち八戸」の推進を挙げ、子どもから大人まで幅広い世代の市民が本に親しむことができるまちを目指している。</p>
(2)	<p><b>「しんかい6500」「よこすか」一般公開 ～世界に誇る船体 間近に～</b></p> <p>八戸市市制施行90周年記念事業の一環で、国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）の有人潜水調査船「しんかい6500」と、深海潜水調査船支援母船「よこすか」が9月22日、八戸港八太郎4号埠頭P岸壁で一般公開された。市民ら約2500人は母船内を見学したり、間近で見られる機会の少ない同船をバックに記念撮影するなどして、深海に思いをはせた。寄港歓迎セレモニーも同時に開催され、小林眞市長らのあいさつに続き、かもめ幼稚園の園児が「いかの街はちのへ」の曲に合わせてダンスを披露し、寄港を祝福した。</p>
(3)	<p><b>「YSアリーナ八戸」オープン ～鏡面のように輝く銀盤で初滑り～</b></p> <p>八戸市長根公園内の市立屋内スケート場「YSアリーナ八戸」が9月29日、オープンした。午後3時からオープニングイベントが行われ、アトラクションとして八戸東高書道部のメンバーらがパフォーマンスを披露。また、平昌（ピョンチャン）五輪スピードスケート女子500メートル金メダリストの小平奈緒選手らによるトークショーなども行われた。夕方からは、リンクが約2時間半にわたって無料開放され、大勢の市民が鏡面のように輝く銀盤で初滑りを楽しんだ。</p>

【産業】

記事	概要
(4)	<p><b>中心街の大型小売店「三春屋」売却へ</b></p> <p>八戸市中心街の大型小売店・三春屋を運営する中合（福島市）が今年11月ごろをめどに、複合商業施設の開発・コンサルティングなどを手掛ける「やまき」（東京）に店舗を売却する予定であることが分かった。やまきは全国各地の複合商業施設や百貨店の再生事業を手掛けており、同社が地方の百貨店を買収するのは初めてとなる。「三春屋」の店名や現在地での営業は継続され、従業員の雇用は維持される見通しで、店舗のリニューアルも計画されている。</p>
(5)	<p><b>VISITはちのへ×味の海翁堂 紅白の南部せんべい開発</b></p> <p>八戸圏域版DMO（観光地域づくり推進法人）「VISIT（ビジット）はちのへ」は、味の海翁堂（八戸市）との共同企画で、鍋料理専用の紅白の南部せんべい「ことぶき」を開発し、9月14日から販売している。通常の白い煎餅と食紅で色を付けた赤い煎餅がセットになっており、10枚入り（紅白各5枚）で、価格は300円（税込み）。青森県産の小麦「ネバリゴシ」を使用しており、鍋で煮込んだ際のモチモチ感が特徴になっている。「お祝い事や記念日には“紅白”の八戸せんべい汁を食べ」とアピールしている。</p>

(6)	<p><b>～都こんぶに合う日本酒～ 八戸酒類で新商品発売</b></p> <p>八戸酒類は9月20日から、人気の駄菓子「都こんぶ」の製造元である中野物産（大阪府堺市）とコラボレーションした新商品「八鶴 都こんぶに合う日本酒」を販売している。東京都の企業が仕掛けた、駄菓子に合う日本酒を開発する企画の一環。同社によると、新商品はすっきりとしたやや辛口の味わいが特徴。酸味の強い都こんぶと相性の良い飲み口に仕上がったという。価格は720ミリリットルが980円、300ミリリットルが480円（税抜き）。アルコール度数は15度。八戸市内のスーパーなど全国で販売している。</p>
(7)	<p><b>タピオカ専門店「琥珀」 県内1号店八戸にオープン</b></p> <p>タピオカドリンク専門店の「琥珀（こはく）タピオカファクトリー青森八戸店」が9月20日、八戸市堤町にオープンした。琥珀は、本場台湾から直輸入した大粒のタピオカを使用したドリンクを提供しており、八戸店では、一番人気の「黒糖パールミルク」（税込み600円）など3種類を販売している。順次、商品のバリエーションを増やしていく予定。琥珀は全国で30店舗以上を展開しており、青森県内初出店となる。</p>
(8)	<p><b>「八戸横丁月間酔っ払いに愛を2019」 多彩なイベントで「横丁」の魅力を発信</b></p> <p>中心街にある八つの「横丁」の魅力を発信する「八戸横丁月間酔っ払いに愛を2019」が10月1日から1カ月間にわたって開催される。店舗や路上を舞台にパフォーマンスを繰り広げる「横丁オンリーユーシアター」の他、八戸三社大祭の山車展示、プラネタリウムなど例年に増して多彩なイベントが行われる予定。オンリーユーシアターは4、5、11、12の4日間、中心街各地の店舗や路上で開かれ、計15組のパフォーマーが出演する。山車は14～17日の日程でマチニワに展示し、夜間にお囃子も披露する方向で調整している。</p>
(9)	<p><b>高級「ケンサキイカ」？ 異例、八戸近海で漁獲</b></p> <p>通常は本州中部以南の沿岸に分布する「ケンサキイカ」とみられるイカが八戸近海で漁獲された。水揚げ量は約7トンで、市場では小型サイズが10キロ当たり3500～3千円、中型サイズは同5千～4千円で取引された。ヤリイカに比べ胴体が太く、ひれ（耳）の幅も広めで、触腕も長く、胴長は10～20センチ。八戸港でケンサキイカの水揚げはあまり例がなく、下関市の水産大学校に個体を送り、詳しく調べているが、八戸魚市場の関係者は「漁獲は一時的なものだと思う」と話している。</p>
(10)	<p><b>漁師しか知らぬ味 イカの“腕” 商品化目指す</b></p> <p>水産研究・教育機構開発調査センター（八戸市）などが、アカイカの部位で現在は販売されていない「腕」の商品化に取り組んでいる。アカイカ漁では部位ごとに分けて凍結、製品化しており、触腕は希少な部位だが、柔らかく切れやすいため商品化はされていない。乗組員の賄い料理の食材として活用される以外は冷凍の際に捨てられているが、食味は上々だという。不漁が続くスルメイカに代わり、存在感が高まっているアカイカは、国内の大半が八戸港で水揚げされ、関係者は「アカイカの新たな活用につながれば」と期待を寄せる。</p>

【地域】

記事	概要
(11)	<p><b>新井田川と小舟渡漁港内に“マグロ”！？</b></p> <p>田向地区の市民病院近くにある「新井田中央大橋」たもとで9月4日、体長約1メートルのクロマグロとみられる魚1匹が泳いでいるのが見つかった。泳ぐ姿を見ることが難しい魚を、身近な場所で見られるとあって、川沿いには連日、多くの見物客が詰め掛けた。同川では9月8日を最後に姿を消したが、代わって、9月9日、10日と階上町の小舟渡漁港内でマグロとみられる魚が目撃された。2カ所の魚を比較すると、左胸びれの形状などから別の個体とみられるのだが、周辺の住民は思わぬ“珍客”に驚いていた。</p>
(12)	<p><b>八商高生が南部せんべいの開発に挑戦 ～イチゴ、ブルーベリー、菊でアレンジ～</b></p> <p>八戸商業高の生徒が、若年層にも煎餅を幅広く食べてほしいとの思いがきっかけで、アレンジを加えた南部せんべいの開発に挑戦している。開発に取り組んでいるのは、商業科3年の7人。メンバーが県内の高校生に南部せんべいに関するアンケートを実施したところ、「見た目が地味」との意見が多かったことから、イチゴとブルーベリー、菊を使った3種類の「カラフル南部せんべい」作りに着手した。まだ商品化のめどは立っていないが、将来は販売も視野に、八戸市内の企業などに協力を呼び掛けていく考えである。</p>
(13)	<p><b>全国学生書道展 学校の部 小中野小が32年連続優勝</b></p> <p>8月に千葉市で開かれた第59回全国学生書道展（白扇書道会主催）で、八戸市立小中野小が、学校の部で32年連続34度目の優勝を果たした。今回は全国から、学校の部は10校・942人、書道塾の部は70塾・2402人が出品。毎年参加している同校は、全校児童322人のうち、学校の部の個人部門で大賞に6人、準大賞に10人が入った。同校児童らが9月18日、市庁に伊藤博章教育長を訪ね、結果を報告するとともに、さらなる飛躍に向けて意気込みを語った。</p>
(14)	<p><b>～街の魅力をカメラでパシャ～ 「ラブはちフォトリンピック」開催</b></p> <p>市内の名所などのチェックポイントを制限時間内に巡り、写真を撮影しながら得点を競うイベント「ラブはちフォトリンピック」（八戸青年会議所主催）が9月22日、八戸商工会館を発着点に開かれた。観光地や神社、公共施設や店舗など84カ所のチェックポイントに、それぞれ5～50の得点を設定。市内の小学4～6年生と同会議所のメンバーでチームをつくり、チェックポイントをスマートフォンなどで写真撮影し、街巡りを楽しんだ。同会議所の創立60周年記念事業として、身近な地域の魅力を再発見しようと企画された。</p>
(15)	<p><b>「HAPPY WOMAN 奥入瀬サミット2019」開催</b></p> <p>女性リーダーの育成とネットワークづくりを目指すセミナー「HAPPY WOMAN 奥入瀬サミット2019」が9月28～30日まで開催された。今年は自分自身の“粹”にとらわれない生き方などを考える「リフレーミング」をテーマに開催。初日は八戸パークホテルで美容家の吉川千明さんと奥入瀬サミット実行委員会会長で産婦人科医の対馬ルリ子さんによる講演などが行われ、参加者約180人が心身共に健康で輝くためのヒントに耳を傾けた。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	<p><b>60歳以上のサッカーチーム「八戸ゼブラ60FC」 東北大会で初優勝</b></p> <p>7月6、7日に福島県楡葉町でTHFA東北O-60サッカー大会兼全日本サッカー大会東北大会が開催され、60歳以上の社会人サッカーチーム「八戸ゼブラ60FC」が初優勝し、来年秋田県で行われる全国大会への出場を決めた。東北大会は各県代表2チームの計12チームで争われ、八戸ゼブラは3チーム総当たりの予選リーグを危なげなく突破。各グループ1位による決勝トーナメント1回戦、決勝ともに1点差のゲームを制し、全国大会への切符をつかんだ。選手たちは「目標は全国制覇」と口をそろえ、来年の全国大会へ意気込んでいる。</p>
(17)	<p><b>全日本アマチュア将棋名人戦 八戸出身の中川六段が初優勝</b></p> <p>第73回「全日本アマチュア将棋名人戦全国大会」は9月9日、東京都のチサンホテル浜松町で決勝を行い、都代表の中川慧梧六段(27)=八戸市出身=が103手で静岡県代表の高橋英晃五段(31)を破り、初優勝した。決勝では、互いに手の内を知り尽くしている高橋五段のミスを逃さず終始優位に戦いを進め、相居飛車の戦いを押し切った。アマチュア将棋の最高峰に数えられるこの大会で青森県出身者の優勝は、第4回大会の故山形義雄さん以来、69年ぶり2人目の快挙。</p>
(18)	<p><b>更上閣で「下北の能舞」公演 ～伝統の舞 風情たっぷり～</b></p> <p>白糖勇清倶楽会（しらぬかゆうせいぐらくかい-東通村）による国指定重要無形民俗文化財「下北の能舞」公演が9月14日、八戸市本徒士町の更上閣で開かれた。白糖勇清倶楽会は、地元地域で世代間の交流を図り、能舞の継承と後継者育成に力を入れている。公演は、翁にさらわれると福を授かるといわれる演目「翁」で幕開けし、続いて「鞍馬」「鐘巻」の演目が披露された。100人以上の観客が集まり、風情ある会場で、下北半島や周辺に伝わる貴重な伝統芸能を堪能した。</p>
(19)	<p><b>八戸藩伝統の「加賀美流流鏝馬」 152年ぶりに復活</b></p> <p>かつて八戸藩で行われていた「加賀美流流鏝馬」が9月21日、八戸市の長者山新羅神社で開かれた。100年以上前に途絶えた加賀美流流鏝馬の存在を知った元高校教員の黄綿廻行さん(76)が、10年ほど前に「八戸地域神事流鏝馬再興会」を発足させ、復活に向けて準備を進めてきた。現在では少なくなった日本の在来馬を使うことなどが特徴で、古文書や文献を参考に当時の様子をできるだけ再現させた。明治維新で途絶えていた伝統行事が152年ぶりに復活した。</p>
(20)	<p><b>八戸駅西地区の「フラットアリーナ」 工事進捗率76.2%</b></p> <p>八戸駅西地区に来春オープンを目指す多目的施設「フラットアリーナ」の供用開始まで、約半年となった。八戸市とクロススポーツマーケティング（東京）が整備する。現在の工事進捗率は76.2%で、10月末には施設本体の工事が完了する見通しである。同施設は、アイスリンクの上に移動式のフロアを設置する通年型の施設。メインとなるアイスホッケーの他、バスケットボールなどの各種スポーツに対応可能で、コンサートや地域行事の開催場所としても活用できる。設備工事を含めた全工程は2020年2月末には終了し、供用開始は2020年3月下旬～4月初旬となる見通しである。</p>